

# 伊能忠敬肖像

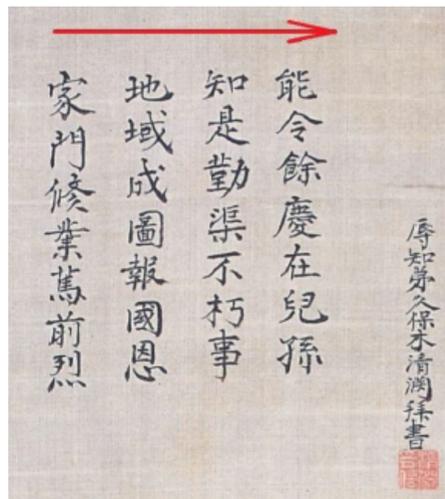


## 伊能忠敬肖像

「千葉県香取市 伊能忠敬記念館所蔵」  
伊能忠敬唯一の肖像画です。

忠敬死後、孫の忠誨(ただのり)が大日本沿海輿地全図を幕府に献上するときに、忠敬の弟子の青木勝次郎に描かせたものと思われています。

家門 業を修め、前列に篤し。  
地域 図を成し、国恩に報いる。  
知る これ 勤渠不朽のこと。  
よく餘慶よけいをして児孫こゝろに在らしむ。  
辱知じよくちの弟 久保木清淵 拝書す



画賛 提供イノペディア





## 伊能忠敬像

上・香取市佐原公園  
下・富岡八幡宮  
提供・Wikipedia



# 伊能忠敬使用の測量器 1 (一部)



## 象限儀 (小)

地上測量器具  
坂道の傾きを測る器具。  
坂道を平面距離に補正するため勾配を測った。



## 象限儀 (中)

天体観測器具  
測量地の緯度を求めるために、北極星などの高度を観測した器具。



## 測食定分儀

天体観測器具  
日食・月食の欠ける様子を観測するために望遠鏡の先につけて、用いられた。

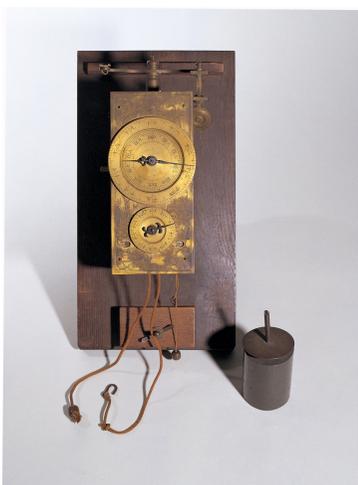
「千葉県香取市 伊能忠敬記念館所蔵」

## 伊能忠敬使用の測量器 2



### わんか羅鍼（杖先方位盤）

地上測量器具。  
杖先につけた方位磁石盤。  
道路（測線）の屈曲の方位を測るのに用いた。  
忠敬が最も使用した器具の一つ。



### 垂揺球儀

精密な振り子時計。  
日月食などの観測の際、開始・食甚・終了の時刻を測定するために使用。

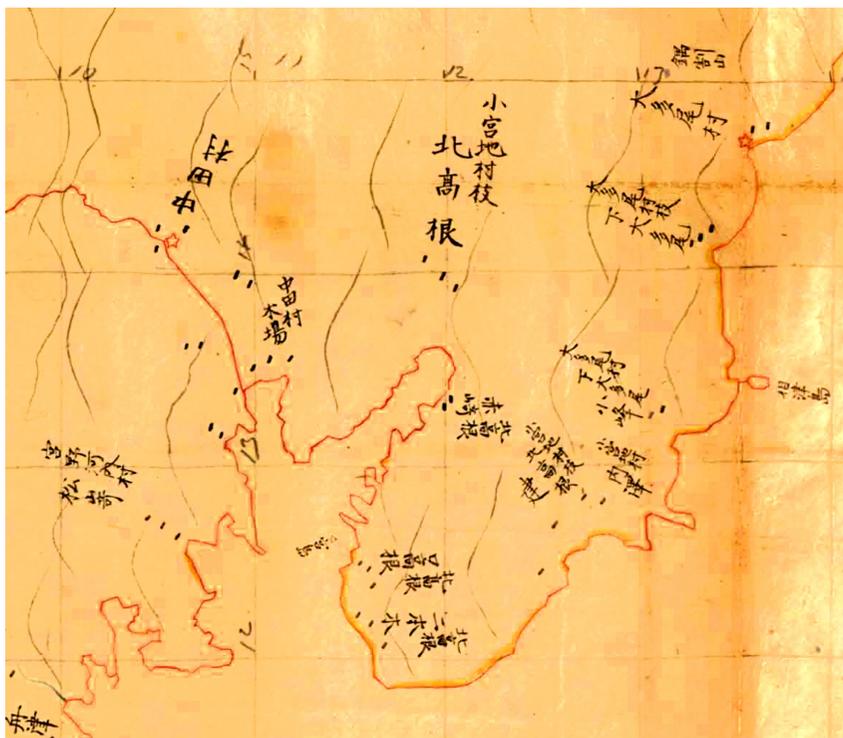


### 量程車

動輪の回転数を歯車で数え、距離を表示した機器で、引いて歩けば距離が分かる。  
理論上、1万間（約18km）まで測定でき、街道など平坦地で利用。

以上は、伊能忠敬が測量・観測に使った一部である。  
「千葉県香取市 伊能忠敬記念館所蔵」

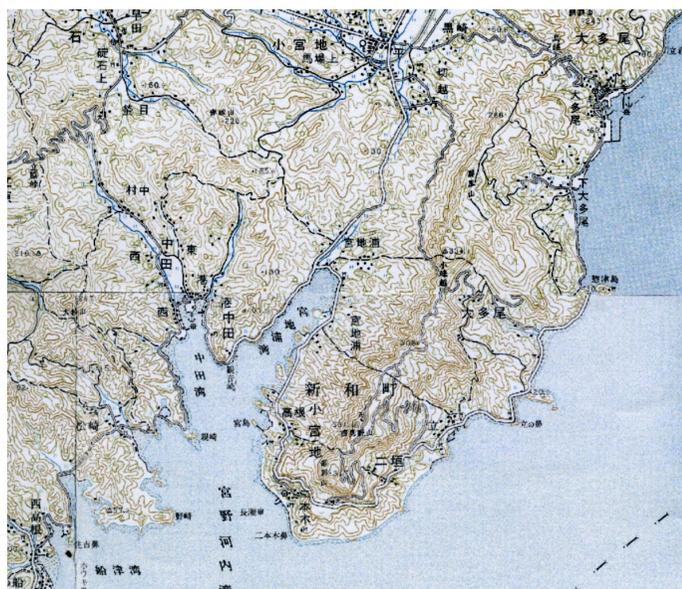
## 伊能図と現在地図の比較

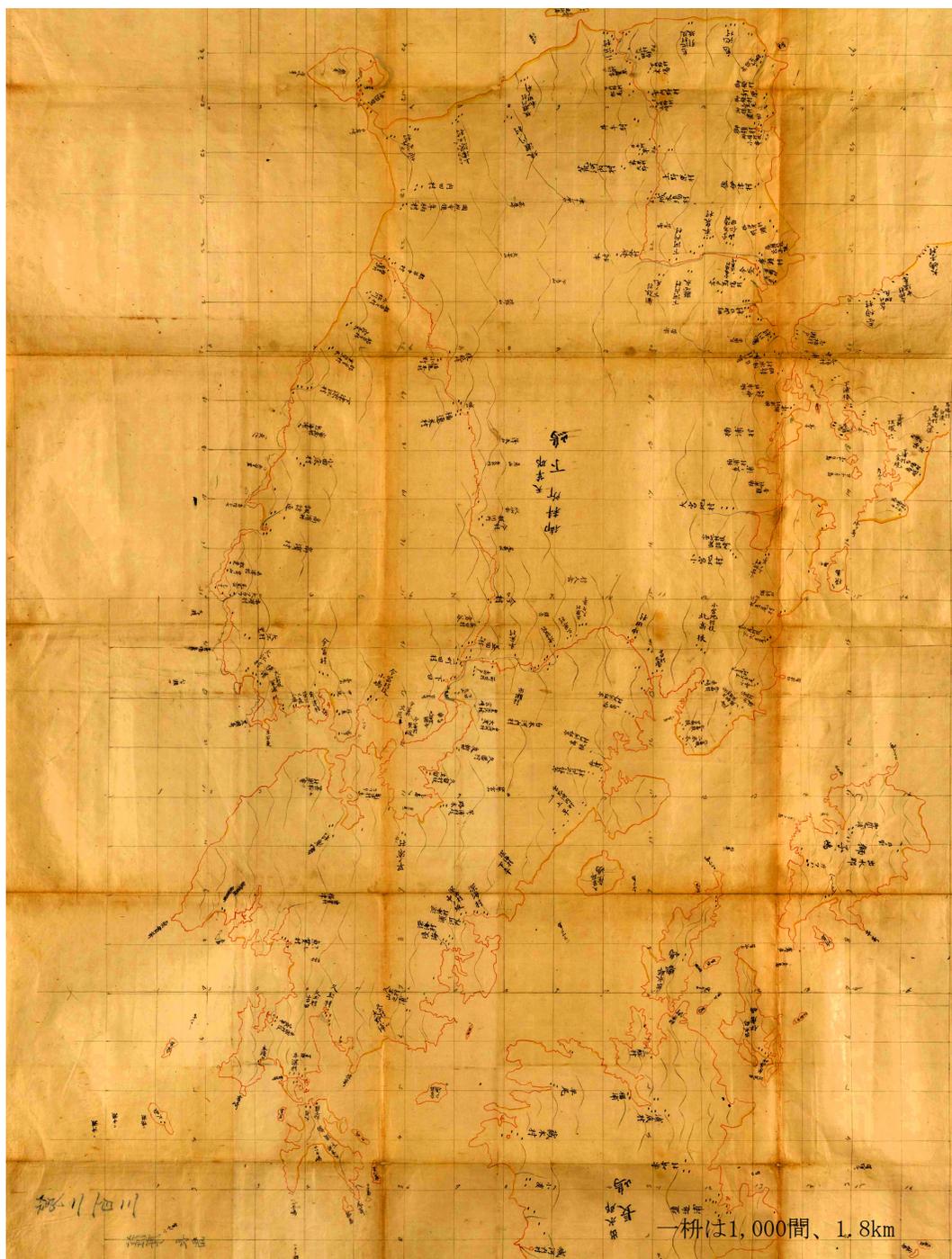


上：伊能図・天草上陸地点、大多尾村付近（現在の新和町小宮地）

下の地図は国土地理院発行の5万分1の地形図（本渡・牛深）を使用したものである。

比較してみても伊能図の精確度がよく分かる





伊能大図 第二三 薩摩 長島 肥後 天草

提供・イノペディアをつくる会 伊能忠敬e史料館

[http://www.inopedia.tokyo/02dataRm/inoh\\_map\\_check/daizu/203.pdf](http://www.inopedia.tokyo/02dataRm/inoh_map_check/daizu/203.pdf)



伊能小図 西日本（部分） 国立国会図書館デジタルコレクション

伊能小図は、縮尺43万2千分の1で、西日本の他、東日本、蝦夷地の3枚からなる。原本は焼失しており、写本である。



### 第七次測量行程図

上は全国・下は九州部分

提供：Inopedia 伊能忠敬 e 史料館 <https://www.inopedia.tokyo/>

※上図の色は、「伊能忠敬測量日記解読」伊能忠敬 e 史料館発行 の巻番号